

# 会議録

## 開催概要

- 名 称 平成 29 年度第 1 回新潟市立豊栄図書館協議会
- 日 時 平成 29 年 6 月 26 日（月）午後 2 時～午後 4 時
- 場 所 新潟市立豊栄図書館 集会室
- 出席者

### <委員>

：伊藤委員，金桶委員，菊地委員，坂井委員，佐藤委員，白神委員，本間委員  
（欠席：野口委員，藤沢委員）

### <事務局>

：木村館長，三條主任，中山主査，藤田主査

### <傍聴者>

：1 名

## 次 第

### 開 会

#### 1 館長あいさつ

#### 2 議事

##### (1) 正副会長互選

#### 3 報告事項

- ア 「もっと身近な図書サービスに向けた改善」について
- イ 平成 28 年度北区内図書館事業報告
- ウ 平成 28 年度豊栄図書館学校図書館支援センター事業報告
- エ 平成 28 年度北区内図書館利用統計
- オ 「図書館へのたより」や図書館への意見
- カ 平成 29 年度北区内図書館事業計画
- キ 平成 29 年度豊栄図書館学校図書館支援センター事業計画
- ク 平成 29 年度北区内図書館の予算
- ケ 図書館ビジョンの評価について

#### 4 その他

### 閉 会

■ 平成 29 年度 第 1 回 新潟市立豊栄図書館協議会

日時：平成 29 年 6 月 26 日（月）午後 2 時から

会場：豊栄図書館 集会室

（司 会）

ただいまより、平成 29 年度第 1 回新潟市立豊栄図書館協議会を開催します。

はじめに、豊栄図書館長の木村からごあいさつ申し上げます。

（館 長）

豊栄図書館長の木村でございます。今日は忙しいところ本当にありがとうございます。

今日は新しい協議会委員の任期のスタートで、これから 2 年間お世話になります。よろしくお願ひします。今日、2 年間のはじめですので、会長、副会長の互選がございます。3 分の 1 が新しい委員で、お互いに顔が分らないと物事が進みませんので、この後すぐ簡単な自己紹介をお願いしたいと思っております。

また、今日、この場をお借りして、北区の図書館の概要を本当に簡単に説明させていただきたいと思ひます。今日配りましたカラーの 1 枚もののプリントをご覧ください。事前配付でなく、今日机の上にお配りしたものでございます。

北区の豊栄図書館は区を中心館という位置づけでございます。それから松浜図書館は地区図書館という位置づけでございます。地区図書室というのが濁川と南浜にございます。豊栄図書館は平成 12 年の 11 月開館、松浜図書館は昭和 56 年 11 月開館でございます。

その次にだいたいの数字が出ております。図書館のカードの登録者数は 13,000 人。北区のものであります。北区の住民が 78,000 人ですから、だいたい 15 パーセントくらいの方が登録しているということになります。貸出冊数は、北区全部で 37 万冊。貸出人数は 10 万人。1 人 3 冊か 4 冊借りているということでございます。

蔵書冊数は、北区全部で 24 万冊、そのうちの 19 万 5,000 冊がこの豊栄図書館でございます。豊栄図書館は開架と書庫にだいたい 10 万冊ずつ収蔵していると思ひただければよろしいかと思ひます。北区全部で入館者数が 26 万人です。これは地区図書室を除いております。

その下に北区の図書館の特徴がございます。豊栄も松浜も喫茶室があります。以下、豊栄図書館なのですけれども、豊栄図書館は来館して書架を見て本を選んでくれる方が多く、予約の割合は少ない。子どもの本の読み聞かせに力を注いでおります。北区、特に豊栄の場合は、市外の登録者数が 11 パーセントもあります。これは市内の中では特筆すべき高い率で

す。土地柄、聖籠町、新発田市、阿賀野市が近くにありますが、その方たちがここへいらっしやっております。

また、建築家・安藤忠雄氏による設計でございますので、本ではなくて建物を見に来る方もいらっしやいます。昨年は韓国からいらっしやいましたし、この8月31日には台湾から20人くらいでいらっしやいます。

北区の図書館の主な取組みとして、普通の閲覧や貸出以外に、このような子どもに対する読書活動振興とか、一日子ども図書館員などの児童向け事業を実施しております。読み聞かせの講師派遣のほか、ブックスタートといいまして、赤ちゃんのときから本に親しくなるようにということで、健診の時にボランティアが絵本を読み聞かせて、絵本を1冊プレゼントするというところでございます。

目新しいというか、ほかの図書館と違いますのが3ですけども、学校図書館支援センターとしての取組みでございます。今日も学校長様にお越しいただいておりますけれども、学校図書館へ訪問して司書との相談、助言等を行っておりますし、学校に公共図書館の本を団体貸出しています。これは授業に使う本とか、例えば、修学旅行の事前学習で佐渡関係の本をまとめて貸してほしいなど、学校の要望に応じてお貸ししております。他に、学校司書の研修を実施しております。

豊栄図書館の玄関に入って、右手の階段脇の壁面に学校図書館支援センターコーナーというのがございますので、ぜひご覧いただきたいと思います。大変充実した展示になっているかと思えます。

4の地域とのかかわりです。年1回ですけども、地域教育コーディネーターとの交流として、同じ研修に参加しております。現在行っている団体への貸出を、これから増やしていこうと考えております。読み聞かせボランティアの紹介、保育園とか団体にボランティアを紹介しております。ボランティアとの共催で図書館まつりを開催しております。

5については、ここにいらっしやる方々は、図書館については本当によくご存じなのですが、図書館がこんな便利だということをまだ知らない方がたくさんいらっしやるということで、もっと利用していただきたいと思っているところでございます。

以上、簡単ですけども、北区の図書館の概要でございます。今日の報告事項にありますけれども、地区図書室の今後について、昨年度から何回かご説明させていただいております。3月29日の正副会長会議、昨年度の協議会の報告もさせていただきたいと思えます。地区図書室を今後どうやっていくかというのを、今日、報告させていただきたいと思えますので、よろしく願います。

簡単ですが、北区の図書館の概要とあいさつとさせていただきます。今日はよろしく願

いします。

(司 会)

本日は藤沢委員がご欠席となっております。傍聴者は1名です。会議録作成のため、録音させていただいております。作成した会議録は公開いたします。また、記録作成のために写真の撮影をさせていただきます。ご了承ください。

では、先ほど館長のあいさつにもありましたが、委員の方が3分の1代わられていますので、ここで委員の皆様から自己紹介をいただきたいと思います。

(館 長)

名簿の順で、佐藤校長からお願いします。

(佐藤委員)

皆さんこんにちは。早通中学校の校長の佐藤文俊と申します。よろしくお願いたします。委員は、昨年まで2年間、1期務めさせていただきました。おかげさまで、図書館のことが私自身よく分かるようになりましたし、またこちらにいらっしゃる白神さんはじめいろいろな形で学校でもご支援いただいております。学校の立場としてしか分からない部分もあるわけですが、支援センターとして年に何回か来ていただいておりますし、子どもたちも本が好きですので、なんとかそういういい形でできればと思っておりますので、今後もまたよろしくお願したいと思います。

(菊地委員)

ごめんください。濁川小学校にこの春からまいりました菊地順子と申します。よろしくお願いたします。北区の図書館のことをいろいろと学ばせていただきたいと思っております。お願いたします。

(本間委員)

こんにちは。図書館に直接こういう形でかかわるのは初めてです。ただ個人的には図書館利用はさせてもらっています。肩書きの地域ボランティアガイド北宝隊（ほっぼうたい）は十数人のメンバーで、博物館とつながりながら活動している団体です。地域の歴史文化再発見ということで、まちのガイドを北区役所の産業振興課と一緒にやってみたり、博物館で、今は市民ガイドのメンバーを何人か担っているとか、いろいろな意味で学校とも博物館を通じてつながっています。人数は少ないのですが、まちの一つの小さな団体として11年目に入りました。今後ともまたいろいろお世話になると思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(伊藤委員)

こんにちは。子育て応援隊ほっとタイムの伊藤といいます。所属は子育て応援隊ほっとタ

イムという市民団体なのですが、新潟市の生涯学習課があった時代に、親子遊びの指導者の養成がありました。乳幼児の親子に向けての親子遊びですので、必ず絵本やわらべうた、昔ながらの歌というものをお母さんたちにお伝えするということを行っています。一番長く関わっているのは東区です。「おやこであそびましょ！」と、「あんよのまえのいないないばあ」という事業を継続しています。今日も「あんよのまえのいないないばあ」があったのですが、7 か月から 12 か月の乳幼児の親と赤ちゃんが、40 組程度集まり東区の事業としてやっております。

乳幼児は育休中しか親子で過ごす時期がなく、期間が短いということで、親子あそびの事業がだんだん縮小されている中、東区はずっと継続して行っています。この「ほっとタイム」のメンバーとして、親子遊びの指導者が 10 名程度、保育グループとして 20 名程度所属しています。住んでいる所は濁川です。自分が仕事を始める前は、子どもが幼稚園児、小学生の頃は、お母さんが子どもたちに読み聞かせをするようなサークルを作って活動していましたが、グループを継続するのは難しいことだと思っています。まだ、週 5 日制対応事業に継続してかかわっているので、本の大切さというのをときどき伝えることができる機会があることをありがたく思っています。協議会委員として 2 期目に入りましたので、図書館のことをさらに知って、地域にも広められるといいと思っています。よろしくお願いいたします。

(白神委員)

ごめんください。豊栄図書館応援団の白神と申します。図書館応援団というのは任意の団体なのですが、この図書館の開館と同時に私たちのグループも発足しました。図書館内で返却本のお手伝い作業をしたり、図書館の「おはなしのへや」とか、地域にある若草寮というのがあるので、そこで読み聞かせをしたり、年に 1 回だけなのですが、図書館と共催で「わくわく体験夏まつり」と称して、図書館を皆さんに広めるような運動になればと思い、そういうお祭りをやっています。この協議会は一昨年から入って 2 期目になります。よろしくお願いいたします。

(金桶委員)

葛塚小学校の地域教育コーディネーターの金桶布志代と申します。よろしくお願いいたします。

豊栄図書館とのかかわりは、こちらで絵本の読み聞かせとか語りの講習を受けて、自分自身も読み聞かせボランティアとして葛塚小学校や北区内の小中学校でボランティアをしています。最近思うことは、どの学校も読み聞かせボランティアの要請が非常に多くなりました。私自身もコーディネートしているのですが、もっとたくさんのボランティアが必要かと思っています。よろしくお願いいたします。

(坂井委員)

私もちょうど2年1期やりまして、今回またやることになりました。

若い時から本を読むことは非常に好きでして、図書館というものは明治時代から、お金持ちの人が、例えば新潟でいうなら市島春城といった方が図書館の普及に尽力したという話を聞いております。子どもであれ大人であれ、本を読むということは非常に大事なことなのだという事は、自分は体で覚えたことだったので。私は、図書館を非常によく利用してまして、少しでも図書館のお手伝いできて、もっと知ることができればと委員に公募したわけなのです。

実際、2年間やってみて思うことは、図書館の活動というのは非常に幅広いものがあるのだということがよく分かりました。読み聞かせとか、また、図書館の果たす役割というのが非常に大きいものだという事をしみじみ感じております。すぐ結果は出ないことかもしれませんが、戦後、図書館法の下で多くの先人、また先輩たちが大変な思いをして作られてきたのが、今日の図書館の体制であろうと思うのです。決して大きく変わるとかはできないかもしれないけれども、少しずつ現状にあったものに改革していけばいいのではないかという感じがいたします。

本を読む力というのはすごいものがあると思います。最終的にはこれがまた、自分が生きていくうえで教育に連なっていけばいいかなと。私は、文章もときどき書くのですけれども、図書館における良書との出会いというものを、「文芸あがきた」に2年前に書かせていただきました。そこにもしっかり書いたつもりなのですが、またさらに今年も、別な角度から書けるように資料を集め、しっかり取り組んでいきたいと思ひますし、一人でも多くの人に図書館を利用していただきたいと思ひます。また、豊栄図書館を利用して受験勉強をして、自分の目指す学校に入ったという子どもの親御さんの話をお聞きしましてですね、やっぱり図書館というのはいいところなのだと思います。しっかり勉強しながら頑張っていきたいと思ひます。よろしくどうぞお願いいたします。

(司 会)

ありがとうございました。

申し遅れましたが、本日進行を務めさせていただく藤田と申します。よろしくお願ひいたします。

続きまして、事務局の職員も自己紹介いたします。

(事務局・三條主任)

豊栄図書館学校図書館支援センターの主任をしております三條直子と申します。よろしくお願ひいたします。

(事務局・中山主査)

豊栄図書館に赴任して今年度2年目となります中山と申します。よろしくお願ひいたします。

(司 会)

それでは、議事に入らせていただきます。

今期の会長がまだ決まっていませんので、会長の決定まで進行させていただきます。

まず、新潟市立図書館協議会運営規則に則り、会長を互選していただきます。会長に立候補されたい委員はいらっしゃいませんか。

推薦なされたい委員の方がいらっしゃればお願ひいたします。

(館 長)

お声があがらないようですので、事務局として推薦したいと思います。これまで副会長をやられてきた白神さんに会長をやっていただくのはどうかと思いますけれども、いかがでしょうか。

(拍 手)

(司 会)

異議がないということですので、白神委員に会長をお願ひいたします。

(会 長)

今ほど推薦されました白神です。歳はくっているのですけれども、感覚だとかそういうものは、本当に皆さんの足元にも及ばないようなところで、本とかかかっていますので、皆さんの貴重な意見がまとめられるかどうか、自信は無いのですけれども、せっかく指名していただきましたのでやらせていただきます。よろしくお願ひします。

それでは、副会長を皆様の中から推薦していただければと思います。どなたか副会長になって私を助けてくださる方、いらっしゃいませんかでしょうか。日頃仲良くしている方たちもそっぽを向いているみたいなのですからけれども。どうでしょうか。立候補される方はいらっしゃいませんか。

それでは、事務局にお任せするというでいいでしょうか。

(伊藤委員)

副会長は何をするのですか。

(会 長)

前期やっていたのですけれども、たいしたことはやっていません。中央図書館のほうで、1年にいっぺん、会長、副会長の協議会の集まりがあったのですけれども、それも会長が発表してくださるので、ただ黙って小さくなって隣にいただけなのです。

(館 長)

会長がご用でいらっしゃらないときに代わりに進行したり、代わりに出席したりと。

(会 長)

それもあったのですけれども、前会長がいつも出席してくださったので。

伊藤さん、やっつけてくださいますか。

(伊藤委員)

お聞きしてただけです。すみません。

(会 長)

では、事務局のほうで。

(館 長)

事務局で考えましたのは、北区の郷土博物館で同じような協議会がありまして、そこで活動されてきた本間委員にお願いするのはどうかと思いました。女性が多い委員会になりましたので、男女共同参画という時代からも、バランスを取ったほうがいいのかということで、本間さんにお願いするのはいかがかと思いました。

(会 長)

どうでしょうか、事務局のほうから、今、本間さんにお願いしたらどうかという提案があったけれども、賛成の方は拍手でお願いいたします。

(拍 手)

(会 長)

じゃあ、本間さん、副会長席にお願いします。

(副会長)

私は、生まれはもともと庄内の鶴岡なのですけれども、東京へ出て、その後小学校の教員を31年やっていました。今、男女という話があったのですけれども、小学校の教員も女の先生がすごく多くなって。図書館の協議会委員のみなさんは、特に男だとか女だとか、そういうことではなくて、図書館をどう考えていくかという観点で集まってきているメンバーだと思うので、そういう意味では、新しく学ばせてもらうことが多いかと思えますけれども、どうぞよろしくお願いします。

(会 長)

無事に副会長も決まりましたので、議事に入っていきたいと思います。

3番の報告事項になります。事務局のほうからずっと続けて、各担当の方の報告をしていますけれども、その都度質問をお受けしていると時間が無いかもしれませんので、一括して質問をためておいていただければ、その後で質疑の時間を設けます。



事務局から、お願いいたします。

(事務局)

配付資料の確認をさせていただきます。事前の送付資料として、右肩に資料 0 と書いてあるホチキス留めの、「もっと身近な図書サービスに向けた改善」についてというものが一部、それからもう一部、表紙が本日の協議会の次第になっております、平成 29 年度第 1 回新潟市立豊栄図書館協議会というホチキス留めの資料があります。めくっていただきますと、資料 1 から資料 9 までホチキスで綴じられているもので、その二つが事前送付資料です。本日席上にお配りした当日配付資料が、委員名簿、裏面に本日の座席表になっているものと、先ほど館長があいさつの中で触れておりました、北区の図書館というカラーの写真が入っている A4 の資料が 1 枚と、A4 サイズでホチキスで留めてある資料 10、図書館施策事業評価シートの 3 種類です。揃っておりますでしょうか。

この他に、図書館で発行しております広報誌の「しらかし」の昨年度 1 年分と、今年度の第 1 号をクリップ留めしたものと、学校図書館支援センターで発行している「センター通信」の昨年度分を机上に置かせていただきましたが、揃っておりますでしょうか。

(館長)

報告に入らせていただきます。

まず「もっと身近な図書サービスに向けた改善」について。これは 3 月 29 日に行われた正副会長会議の報告なのですが、これだけ見ると初めての方は何のことか、理解が難しいかと思ひまして、資料 0 に、その前段までの流れを本当にポイントだけまとめましたので、資料 0 を説明させていただいて、そして正副会長会議を踏まえた報告を、資料 2-1 でさせていただきたいと思ひます。

資料 0 を 1 枚めくっていただいて、(3) 年間貸出冊数という表がございます。新潟市のそれぞれの図書館の状況がお分かりになるかと思ひます。豊栄図書館は上から 4 番目です。松浜図書館は真ん中あたりにございます。今回の「もっと身近な図書サービス」というものの課題になっているのは、表のずっと左側にある、南浜地区図書室と濁川地区図書室です。後ろから 5 番目と 7 番目にございます。

貸出冊数でいいますと、南浜地区図書室は年間 672 冊、濁川地区図書室は年間 1,917 冊です。冊数は下の表に載っております。(5) 蔵書利用率というところで、それぞれの図書館の貸出冊数と蔵書冊数がありまして、(5) の蔵書利用率と申しますものは、蔵書が何回転借りられているかということを示しております。右の表の一番上、小さくて恐縮なのですが、坂井輪図書館ですけれども、一番右の数字が 6.18 となっています。6.18 というのは、坂井輪図書館にある全部の蔵書が、6.18 回転するほど本が借りられているという数字

になります。かたや、左側の下のほうをご覧ください。南浜地区図書室の蔵書利用率は0.30です。そして濁川地区図書室は0.69になっております。本の冊数が少ないのに、回転数も少ないということです。地区図書室の場合は、こういう状況になっております。豊栄図書館は蔵書冊数が多いので、回転数があまり大きくない。1.18と低くなるのです。

次に、ページをめくりまして、2. 新潟市の図書館施設の現状 (7) 開室時間拡大後の状況です。平成27年度と平成28年度の貸出冊数の増減は、濁川地区図書室は0.97、南浜地区図書室で1.10です。地区図書室の利用が芳しくないのです、これまで開館時間が、例えば月水金の午後だけだったのを、平成28年度から平日の昼間、全部開室にしました。ただ、セルフ貸出の時間帯もあります。結果として、0.97とか1.10にしか増えなかったという数字を見ていただきたいと思います。

その下の3. 見えてきた地区図書室をとりまく現状と課題で、地区図書室は、①施設や蔵書、利用とも図書館施設全体の10パーセント以下に止まっています。②地区図書室というのは、コンピュータが設置されておらず、オンライン化されていないので、その図書室だけで運用されています。ほかの図書館は全部オンラインで結ばれていますので、必要な資料をすぐ取り寄せてお貸しできるのですけれども、そういうふうには回らないので結果的に利用が少ないということです。

③ですけれども、年々貸出冊数が減って、開室時間を長くしてみたのだけれどもあまり効果は見られなかった。そこで、もう少し工夫して、「もっと身近な図書サービス」というのを検討しましょうということで、改善例としては団体貸出を拡大したり、連絡所で図書館図書の予約が出来ないかという検討をいたしました。正副会長会議配付資料ですが、ここで今の問題点を確認して、新しい取組として2の取組内容、団体貸出の拡大、もう一つが(2)予約本受取サービスの実施、これは予約した本を連絡所で借りるというものです。それから(3)で地区図書室資源の有効活用ということで、地域の理解を得ながら、地区図書室を廃止して、その本を活用して新しいサービス、予約本サービスとか団体貸出の方法でやっていると考えていますという説明を、正副会長会議で申し上げました。

次のページのイラストのところには、新しい団体貸出と、予約本受取サービスの流れが書いてございます。北区の場合でいえば、連絡所で予約をして、その予約本が連絡所に届き、連絡所から借りられるということです。これまでの地区図書室で予約するよりも早く提供できます。また、電話でも予約出来るということでございます。もう一枚のイラストのところには、新しい団体貸出制度。今までも団体貸出制度を実施しておりましたが、それを拡大して、貸出先の対象を広げるということと、借りやすくなるように、あらかじめいろいろの中身が入っているものを用意する。いきいきBOXとかふるさとBOXとか、よちよちB

OXとかすくすくBOXとか、ジャンルごとにあらかじめ資料を用意しておくという内容でございます。

この正副会長会議の前に、豊栄図書館協議会でもいろいろ議論いただきまして、ご意見をいただきました。それが各図書館協議会での意見ということで、正副会長会議配付資料の2にございます。豊栄図書館で出ました意見を、正副会長会議で報告させていただいております。各図書館協議会での意見 1. 団体貸出の拡大についての主な意見ですけれども、ちょうど真ん中の（豊栄）というのが豊栄図書館の図書館協議会での意見でございます。「又貸しが可能であれば、そのときの図書の管理方法も団体に提示してほしい。」その他意見の欄です、下から二番目、「自治会町内会で団体貸出を受け責任を持って管理することは難しい。」というご意見も頂きました。

次のページですけれども、ぶっくるん（予約本受取サービス）の実施についての主な意見でございます。（豊栄）だけ見ていただきたいと思います。一番上に、「とてもよい」という意見もございました。三番目に、「申込場所、受取場所を高齢者のために普段の生活圏で立ち寄れるところでやるとよい」という意見がありました。次のページで、3. 地区図書室資源の有効活用について主な意見であります。工夫を求める意見という欄です、上から六番目、「図書館全体の方向性について、貸出しだけでなく、居場所としての工夫が必要である。」再考を求める意見の欄で、「具体的に説明を聞いたら難しいなということが第一印象である。」その下に、「行政は数字で規模の縮小や廃止を判断しすぎるのではないかな。切り捨てという感じがする。現に利用者があることは重い。「もっと身近なサービス」とは逆に感じる。」こういう意見をいただいております。

努力を求める意見の欄では、「地区図書室の広報・PRが足りない。回覧板等でさらに周知を図るべき。」「北区の場合、開室時間が根本的に使いにくい。夜間、土日祝日もまちづくりセンターや連絡所の職員と連携するなど行って使いやすくしてはどうか。」というのが豊栄図書館協議会で出まして、各協議会の意見を踏まえて、3月29日、正副会長会議でご意見をいただいたわけでございます。

資料2-1「『もっと身近な図書サービスに向けた改善』について（報告）」、3月29日開催の正副会長会議での発言をまとめたのがこのペーパー1枚になります。ここでは、団体貸出の拡大について、概ね賛成という意見が多くございました。又貸しを想定した運用について、もっと工夫を求める意見がございました。

②予約本受取サービスです。予約本受取サービスの実施についての主な意見では、便利になると、ある程度評価する意見もございましたし、電話やネットで予約して、受取場所が連絡所というように、もっと工夫してほしいというような意見もございました。③地区図書室

資源の有効活用について主な意見です。地区図書室を廃止して、その本をもっと利活用するというのが、資源の有効活用なのですからけれども、それについては、地域の理解を得て進めてほしいとか、単純に地域に任せるのではなくて、いろいろなところと横のつながりで考えてほしい、慎重に進めていってほしいという意見がございました。

2 各正副会長からの意見ということで、正副会長個人から出た意見をまとめるとこういう形になります。二つ目の「・」ですけれども、団体貸出で又貸しも含めた利便性の確保が必要であるというような意見が出ました。このような意見をいただいて、新潟市の図書館としては、平成 29 年度にモデル実施をして、その結果を踏まえて平成 30 年度にどこまで出来るかというのを考えて行きたいと思っておりますし、図書館協議会でも経過を報告してまいりたいと思っております。そういうお話で正副会長会議は終わっております。

今後の予定ですけれども、①平成 29 年 10 月から「予約本受取サービス」を 5 か所で試行的に実施する。5 か所は、南浜と大形と両川と赤塚、中野小屋の地区図書室を予定しております。北区は南浜が対象になっております。内容としては、地区図書室は開いておくのだけでも、予約の受付・貸出は連絡所の職員が、連絡所のカウンターでやるということでございます。

新しい団体貸出についても 10 月から実施したいと思っておりますし、10 月実施の前には、コミュニティ協議会や利用者の方に説明して行きたいと考えております。

資料 2-2 については、今、ご説明しました、もっと身近な図書サービスに向けた改善ということで、一つは新しい団体貸出制度の拡大。これは対象団体を拡大する、あらかじめテーマ別の本を用意しておくということです。もう一つは連絡所での予約本受取サービスの導入でございます。

以上が、「もっと身近な図書サービスに向けた改善」について正副会長会議を踏まえた御報告でございます。これで、報告事項 ア「もっと身近な図書サービスに向けた改善」についての説明を終わります。

(司 会)

続きまして、報告事項 イの平成 28 年度北区内図書館事業報告に入らせていただきます。資料 3 です。1、児童対象事業の①おはなしのじかん（職員担当）についてですが、豊栄図書館の欄をご覧ください。豊栄図書館のおはなしのじかんでは、対象年齢を分けて、0～2 歳児と保護者向けの回と、幼児向けの回を開催しています。このうち、毎週日曜日に開催している幼児からの回を、昨年度から子ども本人だけでなく、保護者も参加可能といたしまして、そのことで、前年 27 年度に比べて参加者数が大変増加いたしました。

②おはなしのじかん（ボランティア）の表に移らせていただきますが、豊栄図書館では 4

団体からおはなしのじかんにボランティアとして登録いただいています。豊栄図書館応援団、おはなしバスケット、おはなしの泉、クリーク・クラックの4団体です。松浜図書館は1団体、こんぺいとうからボランティアとしておはなしのじかんに協力いただきました。昨年度、豊栄図書館はボランティアの活動人数が増加いたしました。このページ下に図2ということで写真が掲載されていますが、これは松浜図書館で活動しているこんぺいとうのおはなしのじかんの様子です。2 ページ③その他の事業です。北区の欄をご覧ください、最初の欄に掲載されていますブックスタートです。ブックスタートの時に図書館の情報と、それから北区の子育て関係の情報を一つにまとめて、このようなビニールの手提げに入れまして、ブックスタートパックということで、お一人お一人にお配りしています。プレゼントの絵本は3種類の中から一つ選んでいただいています、昨年度は『がたんごとんがたん」とん』と『もうおきるかな?』、『おふろでちゃぷちやぷ』の3冊の中から、読み聞かせを親子一組一組に楽しんでいただいています、一冊気に入ったものを選んでいただきプレゼントしております。

北区では2会場でブックスタートを実施しているのですが、北地域保健福祉センターで昨年度から毎月1回ブックスタートを実施することになりまして、平成27年度までは隔月で実施しておりましたので、回数が27年度に比べると倍の12回に増えております。

それから豊栄図書館の欄をご覧くださいなのですが、春にボランティアと協力開催いたしました、「春のおはなしリレー」という催しは、ボランティア団体4団体と協力開催で、おはなし会をリレー形式で行っています。豊栄図書館で活動している団体からおはなしバスケット、クリーク・クラック、豊栄図書館応援団の3団体と、松浜図書館で活動しているこんぺいとうからもご協力いただき、4団体で開催いたしました。

夏休み事業といたしまして、「一日子ども図書館員」と「かがく実験室」という科学工作の教室を開催いたしております。2 ページ下の図3、図4が豊栄図書館での「一日子ども図書館員」の様子です。ページをめくっていただきまして3 ページの一番上に「かがく実験室」の欄があります。昨年度は、ペットボトルで万華鏡を作ろうということで、中身に入れる色とりどりの平たいピースの中から、それぞれ思い思いに好きなものを入れて、外側にも油性マジック等で装飾を施して、それぞれ楽しんで工作してくれたようです。

松浜図書館の表に移りまして、松浜図書館でも「一日子ども図書館員」を夏休み事業として開催いたしました。こちらは2回のうち、1回を土曜日に設定いたしまして、平日に参加できない児童も参加できるように配慮しております。

ページをめくっていただきまして4 ページです。④講師派遣・体験学習・視察等ですが、豊栄図書館、松浜図書館とも、中学生の職場体験学習を受け入れしております。豊栄図書館の欄をご覧くださいますと、施設見学のところ、多くの児童が来館しています。4 ページ

の下にある図の 8 から図の 11 は、豊栄図書館の施設見学のもようです。図書館の建物の工夫について説明を聞いたり、思い思いに本を選んで読書をしたり、バックヤードの、普段利用者は立ち入れない書庫に入ってもらって、ハンドル付きの集密書架を実際に動かしたりと、普段できない体験もできるので、とても印象に残るようです。「一日子ども図書館員」に参加した児童で、低学年の時に施設見学で図書館を見学していて、職員が説明した内容をしっかり覚えていて、「一日子ども図書館員」の際に館内を案内・説明すると、「知っている」と言って、説明を披露してくれた児童もいまして、大変印象に残っているのだなということが実感できました。図書館利用教育のよい機会になっていると思います。松浜図書館の欄をご覧くださいますと、松浜では中学生だけでなく、保育園からも施設見学に来館しています。

5 ページ⑤ボランティア紹介です。豊栄図書館では小中学校や保育園から依頼を受けまして、おはなし会を実施するボランティアを紹介しました。平成 28 年度は 8 校から依頼があったのですが、前年度は 6 校から依頼があったので、年を追うごとに依頼件数が増加しております。このボランティア紹介で紹介している団体として、豊栄図書館おはなしの勉強会という団体があるのですが、これが同じ 5 ページの 2 一般対象事業の②その他の事業の表で、豊栄図書館の欄をご覧くださいますと、おはなしの勉強会という事業名があります。このおはなしの勉強会で勉強しているボランティアの方達を、小中学校に、ボランティアとして紹介してご協力いただきました。このグループは、図書館のストーリーテリングの講座を受講した方たちが、その後も継続して図書館の勉強会を続けていまして、図書館の中で大人向けのおはなし会を年 2 回、子ども向けのおはなし会を年 2 回実施しています。学校のほうにも新たに活動の場を広げていただいています。

6 ページ。豊栄図書館の表のちょうど中程をご覧ください。読み聞かせボランティア養成講座ステップアップ編としまして、昨年度は三つのテーマで開催いたしました。乳児への読み聞かせ、わらべうた、科学絵本というテーマです。それからこの表の一番下なのですが、3 月に絵本作家の澤口たまみさんをお招きして講演会を開催いたしました。「小さな生きものの世界へようこそー絵本で伝える虫の魅力ー」という演題で、科学絵本や虫をテーマにお話しいただいたので、ちょっととつきにくいと感じた方が多かったのか、残念ながら参加人数は多くはなかったのですが、とても楽しい語り口で、澤口先生の虫や生きものに対する愛情たっぷりのエピソードを披露していただいて、笑い声のたえない楽しい講演会になりました。講演会のもようは、「しらかし」の今年度 4 月号の中で報告しております。澤口先生の写真付きで講演内容を紹介させていただいておりますので、よろしければ後でご覧ください。

5 ページに戻りますが、豊栄図書館の欄にあります「わくわく体験夏まつり」。これは、

豊栄図書館応援団主催の会で、毎年図書館を会場にいろいろな体験教室のコーナーを設けて、楽しい夏まつりを開催いただいております。昨年度はコンサートですとか、本のクイズを解いていくクイズラリー、工作、縁日などいろいろ企画してくださいました。図書館からもバックヤードツアーを開催したり、おはなしのじかんに協力をさせていただいたりしております。6 ページの下の図 13 から 20 は、夏まつりのもようです。昨年度もいつやるのかという日程の問い合わせなどもたびたびいただきまして、楽しみにしていただいている事業と感じております。

7 ページの 3 啓発事業（広報）の欄をご覧ください。豊栄図書館、松浜図書館ともテーマ図書の展示を行ってございまして、テーマを設けて、そのテーマに添った本を集めて紹介しています。7 ページの下に掲載しています図 21 と図 22 は、豊栄図書館でのテーマ展示の様子です。

8 ページ、4 図書館ボランティア活動です。読み聞かせのボランティアやブックスタートボランティア以外にも豊栄図書館では配架や書架の整理のボランティア、松浜図書館では本の補修のボランティアが年間を通じて活動してございまして、昨年度もこの表のとおり、大変多い回数で活動いただいております。

資料 3 の報告は以上です。

続きまして、ウ 平成 28 年度豊栄図書館学校図書館支援センター事業報告に入らせていただきます。担当の三條からご説明いたします。

（事務局）

まず学校図書館支援センターのことについてご説明いたします。学校図書館支援センターは、平成 20 年度に西川図書館での試行が始まりまして、そのあと、平成 21 年に豊栄図書館、平成 22 年に白根図書館での試行を経まして、平成 23 年度から中央図書館も含めた 4 支援センターで 2 区ずつ、8 区の小中学校を支援しております。豊栄図書館の担当は、北区の小中学校 21 校と江南区の小中学校 16 校、合わせて 37 校です。主任 1 名と嘱託 1 名の 2 名で支援を担当しております。

では、資料 4 の 1 ページ目の取組みをご覧ください。4 支援センターで共通の基本の取組と重点を基に、各支援センターでの取組の重点を設定しまして支援を行っております。平成 28 年度豊栄図書館は、資料の 1 ページ目の 3 の、上から二つ目の欄にありますとおり、二つの取組の重点を基に活動してまいりました。

2 ページ以降が昨年度の事業報告になります。その中から主なものをご説明いたします。2 ページをご覧ください。中心となる取組みといたしまして、訪問、相談、資料提供を行っております。学校図書館訪問は年 3 回行っております。初回は校長先生と主任の先生にもお会い

させていただきまして、支援センター活動の理解とご協力をお願いすると共に、学校図書館の運営方針や取組みなどについて伺って、先生方や司書さんからの相談を受けております。昨年度は4月から7月、9月から12月、1月から3月の3回に分けまして、延べ61回訪問を行いました。先ほどの1ページ目にあります重点の1に基づきまして、訪問では学校図書館の活用状況などについて聞き取りを行いまして、私どもからは授業で活用出来る蔵書の構築や、学校図書館推進事業というものを意識したテーマ展示などの図書館作りなどについて助言を行いました。また、利用しやすい図書館にするために、司書が分類や配架、別置の見直しなどにも目を向けるようにお話しをしてまいりました。

特に毎年心がけているのは、新採用校や異動校の司書に対する助言です。まずは図書館に慣れていただくことを中心に、そのあと自校の課題を見つけて少しずつ取り組んでいくように助言をしております。

また、訪問では、もう一つ目の重点に基づきまして、「うちどく（家読）」の話もさせていただきました。「うちどく（家読）」というのは、朝の読書の家庭版というか、家族で一緒に本を読んだり、感想を語ったりするものです。平成27年度末現在、北区、江南区の小学校で、主に取組みをすすめているところですが、23校のうち11校の48パーセントの実施率でございました。私どもでは、昨年は重点的にこちらの推進をしようということで、平成26年度から「うちどく（家読）」を実施している小学校から資料を集めまして、まだ実施していない学校へ情報提供に努めてまいりました。昨年度はその情報提供とともに、希望する学校には、こちらのようない「うちどく（家読）」の、学校版のうちどくノートや、こちらのシンボル、ほんぽーとの名誉館長の黒井健さんが描いたロゴマークなども提供して、ぜひ実施してほしいということをお話ししてまいりました。その結果、新たに7校の実施が始まりまして、実施率が78パーセントとなりました。ほかの区と比較すると高い実施率となっております。

また昨年度の学校からの相談は、業務に対する相談が201件、資料等に関する相談が134件でした。平成27年度に比較いたしますと、相談の件数は若干減少したのですが、業務の遂行能力の向上や、相談する相手が私どもだけではなくて、司書同士の横のつながりができて、自分たちで解決できるようになったことが原因なのではないかなと考えております。それでも、やはり何か困ったときには、私どもがいつでも助言ができるような存在でありたいと思ひまして、私どもも4支援センターで情報交換を行いながらスキルアップもしていけないといけないうことを常に話し合っているところでございます。

学校への団体貸出の数は微増でございましたが、搬送で利用した本で、必要な図書を自分たちの図書館でも購入して、蔵書構成に役立てていっていただきたいということでお話しを



させていただきます。

4 ページ、5 ページの研修をご覧ください。平成 27 年度から新潟市の教職員研修案内に掲載される指名研修となりました。大きな研修として三つの研修がございます。一番上の新任学校司書研修ですが、こちらは 4 支援センター共通で、新任学校司書を対象に年 6 回の実施をしております。右の写真にありますように、新潟市の職員としての服務のお話や、読み聞かせの実習、また、各地区別に分かれまして、各支援センター職員に日常業務の相談を出来るような時間を設けました。不安の解消に役立ったことと思っております。

二番目に、学校司書実務研修をおこなっております。こちらは、各支援センターで年 2 回ずつ実務研修として実施しています。テーマは、それぞれの区の状況や学校からのニーズですとか、その年度の重点目標を踏まえて設定しております。昨年度は重点の 1 に基づきまして、1 回目は著作権の研修、障がい等を理由とする差別解消の推進に関する、新潟市職員対応についてということでご指導いただきました。2 回目は地域資料研修を実施いたしました。北区、江南区の歴史や文化についてお話しいただき、最後にはグループ討議を行いまして、各学校で持っている地域資料について紹介をし合い、研修の成果としてこちらのようブックリスト、その学校で持っている地域資料の紹介をお互いにするということで、ブックリストを作成するというので、研修をしてまいりました。いずれも学習センターや情報センターとしての役割を再認識するとともに、交流を通してお互いに意欲向上につながる研修になったと思っております。

6 ページをご覧ください。連携ということで、小中学校の校長会でごあいさつをさせていただいたり、小学校、中学校の司書の、それぞれの勉強の場である、市小研、中教研、図書館部などの見学をさせていただきます。

7 ページです。支援センターは運営協議会を、図書館とは別に設けておりまして、昨年も 2 回行いました。今年度は今週木曜日に行く予定になっています。また、4 支援センターで、各種プロジェクトを設置しておりまして、さまざまな資料の作成や、研修の計画などを立てております。私どもは、昨年、新任学校司書研修で使うテキストの改訂の担当となりまして、今までの受講者からのアンケートや、自分たちが講師をしてみたの反省点などを活かしまして、新しい、大幅な改定を行いまして、新しいテキストを作成いたしました。

以上が平成 28 年度の取組みでございます。

(館長)

続きまして資料 5 をご覧ください。平成 28 年度北区内図書館利用状況及び蔵書冊数でございます。北区の合計を黒い太枠で 26、27、28 年度と並べてございます。登録者数は、平成 26 年度は 1 万 4,002 人、平成 27 年度は 1 万 3,148 人だったのが、平成 28 年度は 1 万

3,092 人に下がりました。その右の貸出冊数の欄をご覧ください。平成 27 年度の貸出冊数は 37 万冊でしたが、平成 28 年度は 35 万 5,000 冊に減少してございます。右のほうの欄の貸出人数をご覧ください。平成 27 年度から平成 28 年度にかけて、貸出人数が 10 万人から 9 万 8,000 人に減少してございます。

予約件数は、平成 27 年度が 4 万 6,700 件、平成 28 年度は 5 万 0,500 件でした。インターネットや電話で本を予約して、その本を借りに来る人は増えてはいますが、ほかの数字は残念ながら減ってございます。欄外の下の方をご覧ください。真ん中にあるのが、入館者数です。延べ人数で平成 26 年度が 20 万 6,000 人、27 年度が 20 万 7,000 人、残念ながら昨年度、平成 28 年度は 19 万 7,000 人と、20 万人台を割ってしまいました。開館時は入館者数が 30 万人と聞いておりますので、その時代に比べれば 3 分の 2 に減っております。その時は、勉強しに来て席が無かったということですが、昨年度を見ると、全く席が無いというのは、年に 1 回か 2 回くらいなので、本当にもっともっと図書館を居場所として使っていただけて大丈夫かなと思っております。右の欄が松浜図書館の入館者数です。松浜図書館は数字としては増えてはいますが、平成 27 年度のカウンターの開始が 5 月 7 日だったので、1 日あたりは 240 人から 221 人と、残念ながら減少しております。これが平成 28 年度の図書館利用、蔵書冊数の状況でございます。

資料 6 に入らせていただきます。利用者の方からいろいろご意見いただきますけれども、「市長への手紙」、「区长への手紙」、図書館単独の「図書館へのたより」という制度がございます。平成 28 年度は合計 9 通いただきました。「市長への手紙」、「区长への手紙」はございませんでした。

2 「図書館へのたより」の主な意見と回答でございます。5 月 18 日、「将棋世界」を雑誌架に出してほしいと。以前、「将棋世界」の切り取りがあったため、カウンター内に設置しておりましたが、開架に出してほしいというご意見を受けて、雑誌架に設置しております。

7 月 24 日、先ほどからご説明しておりますイベント「わくわく体験夏まつり」の開催日です。「子どもが走り回ったり大声を上げて読書に集中できない。図書館本来のあり方とイベントは矛盾する」というおたよりをいただいております。

悩んでおりますのが、9 月 19 日のおたよりでございます。「こどものコーナーにいたら蚊に何か所か刺された。子どもも刺された。まさか図書館で刺されると思わなかったので虫よけ薬も持って来なかった」というおたよりです。

3 はその他、利用者から職員へ直接お話しがあったご意見をご紹介します。私どもの図書館にはパソコンを使えるエリアがあって、パソコン用のコンセントがあるのですが、そこでは携帯・スマホの充電は不可としております。パソコンはコンセントにつないでいい

けれども、携帯、スマホは充電できないということです。職員が、それらしい機械をコンセントに差していた利用者に注意したら、「これは携帯ではない。モバイルWi-Fiだ」ということでした。「使用電力を考えたら全然問題無いのではないか」と言われると、確かにそれも一理あります。パソコンは電源使用可ですが、それほど電気を食わないものを不可にしていますし、モバイルWi-Fiと携帯とどこが違うのだとか、こちらの制度が時代に追いついていないという面もございます。

高校生がうるさいという意見もございます。また、「まっぷる」「るるぶ」などの旅行ガイドなのですが、それは、旅行シーズンになると、例えば福島県とか山形県の旅行案内が、古いものまで含めて全部借りられるのです。そういう様子を見て、旅行ガイドの一番新しいものは貸出禁止にして、いつ来ても見られるようにしておくべきだというご意見をいただいています。

冬の期間は、きちんとブラインドを開けて太陽光を入れて、暖房費を節約すべきだというようなご意見もいただいております。

以上が平成28年度に寄せられたご意見でございます。

(事務局)

では、カ 平成29年度北区内図書館事業計画を説明いたします。資料7でございます。

1 乳児・児童・生徒読書活動の支援事業としまして、①おはなしのじかん、②その他の事業を図書館のボランティア団体からもご協力いただきながら開催してまいりたいと思います。ページをめくりまして、2 ページ。2 一般向け事業の①読書会です。読書会は、これまで「子どもの本がおもしろい」というタイトルで、児童書、絵本、ヤングアダルト向けの図書を読んで、参加者で話し合うというスタイルでやってきたのですが、今年度は、一般書を読む会を1回設けて、ジャンルを広げることで、参加者の増加につなげたいというねらいです。9月30日に一般書の会を予定しております。

②その他の事業の豊栄図書館の欄で、読み聞かせボランティア養成講座（入門編）といたしまして、北区内の図書館で活動する読み聞かせボランティアを新たに養成する講座を設けます。

3 ページです。4 その他、北区の欄をご覧ください。ボランティア交流会ということで、今年度も北区の図書館で活動されているボランティア団体の交流や意見の交換を図るために、交流会を開催する予定でございます。それから、豊栄図書館の欄で、わくわく体験夏まつり、こちらも今年度の日程が決まりまして、7月23日日曜日開催予定です。ほかにも定例のおはなしのじかんのほかに、夏休み、それから冬の期間に開催するスペシャルのおはなし会も、それぞれのボランティア団体から協力いただいて、日程も決まっておりますので、こちらに

掲載しております。資料7の説明は以上です。

続きまして、キ 平成 29 年度豊栄図書館学校図書館支援センター事業計画をご説明いたします。

(事務局)

では資料8をご覧ください。先ほど平成28年度の報告でご説明しましたとおり、4支援センターの基本の取組みと平成29年度の重点をそれぞれ設定いたしまして活動を行っていく予定です。豊栄図書館の平成29年度の取組の重点は、1ページ目の3、各支援センターの重点、豊栄図書館の欄をご覧ください。1番として、「学習センター」、「情報センター」、「読書センター」機能の向上に繋がる支援の充実。2番目といたしまして、学校図書館活用推進に繋がる情報の発信。こちらを目標に活動してまいりたいと思います。

裏面が平成29年度の事業計画になります。主なものをご説明いたします。

学校図書館訪問ですが、今年度も4月下旬から7月下旬まで、第1回目の訪問を実施しております。今現在、25校をすでに回しまして、7月、残りの12校を館長と担当2名で訪問する予定になっております。訪問は年3回の予定になっておりまして、第2回目を10月から12月、第3回目を1、2月に予定しております。

そのほか、今年度、北区の葛塚東小学校と太田小学校が統合いたしますし、学校図書館の改修工事ということで、図書館の改築工事を、曾野木小学校、亀田小学校などで行っております。そういった重点的に助言が必要だと思われる学校には、適宜この3回のほかにも訪問してまいりたいと思っております。

それから、重点の2番目に基つきまして、今年度の訪問では各種の情報を意識的に発信しております。例えば、毎年学務課から学校図書館基本調査ということで、貸出冊数の推移ですとか、蔵書構成などの情報が提供されますが、各学校の5年間の一人当たりの貸出冊数の推移を、このようにグラフ化いたしまして、各学校でこのように伸びていますねとか、伸びている理由とか、そんなことをお聞きしたりして、情報を提供しております。貸出が伸びている冊数の多さだけが評価されるわけでは、もちろんないのですけれども、一つの指標として提供しています。

それから、訪問では許可を得まして写真を撮らせていただきまして、他校へも事例の紹介をしております。ほかの学校で、どんなふうに行っているかという取組みは、特に新人の司書ですとか、新たに異動してきた方にとっては、大変有効な情報になっております。広く紹介したい事例は、後日許可を取って、支援センターのホームページにも載せていきたいと考えています。

個々の相談に対応して、情報の提供などできることをまた、今年度も続けて支援してまい

りたいと考えています。

研修ですが、今年度も新任学校司書研修と学校司書実務研修を行います。平成 28 年度報告でも申し上げました通り、プロジェクトとして、今年度は、新任学校司書研修を、豊栄図書館の支援センターが中心となって企画しております。現在 4 回目が終わったところになりますが、今年度は全市内で 15 名程度の受講者がおりまして、北区、江南区からは、4 名が参加しております。

豊栄図書館の学校司書実務研修といたしましては、年 2 回の計画を立てております。1 回目は今月 6 月 28 日、この水曜日ですが、学校図書館と N I E ということで、中央区、東区の司書の皆さんと合同で実施予定です。2 回目は 10 月 3 日になりますが、学校司書実務研修 2 として、子どもの理解と特別支援教育ということをテーマに、亀田西小学校の発達小学校通級指導教室の担当の佐藤先生を講師としてお招きいたしまして開催の予定となっております。

運営協議会は年 2 回、今年度も年 2 回を開催の予定としております。

今年度もきめ細やかな支援をしてまいりたいと考えております。

(館 長)

続きまして資料 9 です。平成 29 年度予算内訳ということで、平成 27、28、29 年度と並んでおります。見ていただきたいのは 2 段目の読書普及事業費（資料購入費）、これは本を買うお金です。北区全体の図書館の本を買うお金です。平成 27 年度が 1,700 万円、平成 28 年度が 1,400 万円、平成 29 年度が 1,300 万円という状況でございます。

真ん中に図書館管理運営費というのがございます。図書館を運営する、電気、ガス、水道と、豊栄図書館で言えば、窓口カウンターの方を委託会社と契約しておりますけれども、その費用が入っております。

下の表、職員数をご覧ください。28 年度から 29 年度になるときに、正職員がマイナス 1 になっており、非常勤嘱託職員になっております。予算については全体のシーリングといい、全体的に削減されている状況がございます。それに加えて、図書館では、貸出冊数に応じて予算配分もされています。館長の営業成績によって予算が減らされております。

以上が 29 年度の予算内容でございます。

(事務局)

続きまして、区の図書館ビジョンの評価についてです。

当日配付の資料 10 をご覧ください。こちらが、例年お願いしておりますが、図書館の事務事業の自己評価に対して、協議会委員の皆様から評価をしていただいております。今ご覧いただいている資料が、シート No.1、めくっていただきますとシート No.2 と 2 枚あります。

評価については、今年度の第 2 回の協議会で、図書館の自己評価欄、28 年度の実績の確定値を記載したシートを皆様にお配りいたしまして、協議会の皆様から、外部評価の欄で評価をいただきたいということでございます。

現段階では、シートNo.1 の実施結果の速報までと、シートNo.2 のほうも、H28 実績という欄がちょうど真ん中よりも左手の当たりにあるのですが、これがまだ速報値ということで、こういった指標で、区分、項目の評価をいただきますということで、参考にお配りさせていただきました。実際の評価は、自己評価・昨年度実績（確定値）を記載したものを改めてお配りして、第 2 回の時に評価の依頼をさせていただきますので、よろしく願いいたします。資料 10 の説明は以上です。

（館 長）

説明が長くなりましたが、事務局の説明はこれで全部です。お疲れ様でした。

（会 長）

ご苦労様でした。一番の新発見が、館長が営業職であったというところなのですねけれども、冗談はさておき、長い間、皆さん、黙ってお聞きいただきまして本当にありがとうございました。

いろいろな報告やら計画やらで、頭の中の整理がついてないような状況もあるかと思うのですが、この中で気がついた点とか、何かここはちょっと質問しておきたいみたいな点がありましたら、どなたでも。

（坂井委員）

南浜と濁川、この図書室について、よく議題に上るし、私も 4 月にじっくり時間かけて見て来ました。図書館のイメージというのは、豊栄図書館はすごく立派な図書館でして、松浜も職員の方がおられてきちんと対応されている。ましてほんぽ一となんかいうともものすごくいい、そういうイメージが私にはあるわけですが、率直に言って、図書室というのはこういうものなのかなという、ちょっとがっかりしたといいますか、これで果たして、本を読もうとか、本を借りてみようという意欲が湧くのかなという感じがしました。20 畳くらいなところに本を置いてあって、これで本を借りたり本を読んだり。本を読む場所なんかないわけです、現実にはない。

濁川の人で知っている方がおられまして、その方といろいろな図書についての話をしました。図書室について、やはり私と同様のことを感じているし、もっと本が多いほうがいいと。濁川はつくし野とか、すみれ野などに非常に人口が増えたのです、昔と比べますと。そんなことで図書館が充実するといいなと、そんな意見も言っていました。私もそう思います。図書室を見に行ったとき、1 階から連絡所職員の方が来られまして、いろいろ説明してくれま

した。いくら図書室とはいえ、もっと本を読むところがあってもいいのではないかと思います。市内で 25 の図書室があるわけです。北は二つですが、先ほどの図書利用率からいっても非常に厳しく、今、精査されているところなのだろうと思うのですけれども、いい方法がないものなのかと。

図書へ図書へという流れを作っていながら、果たして、図書室へ行って本を読もうというか、そんな気になるのかという感じが私はしました。ちょっとがっかりしました。南浜も行って来ました。やっぱり連絡所職員の方が、私が言ったわけじゃないのだけれども、1 階から 2 階へ、私が見ているときに来られまして、いろいろお話ししてくださいました。全く同じ感じですよ。図書室ですからね。差はあるわけじゃないのだと思います。入り口のところにいろんな掲示板がありまして、利用者のアンケートが貼ってあったのです。あなたはどこの図書館を利用していますかと。恐らくアンケートを取って、その集計したものが貼ってあったのだと思います。図書館を実際どこで利用しているかということで、一番多いのが、南浜地区ですから、豊栄図書館なのです。ここにない本とか、勉強するときに豊栄図書館を利用しているという結果です。その次が松浜図書館でした。

非常に目立たない所、入り口の小さい所にいろいろな掲示物と一緒に貼ってありました。そういうことを考えていったときに、もっと考え方と持って行き方があるのではないかというような考えがしてならない。何か言うとすぐ、予算が削られているのだと、ここでみんな納得させられるみたいなどころがあるのです。濁川地区図書室を一時閉じたことがあったのだそうです。市長が来られて、開けなさいということになって開けたという、館長も知らないと思うけれども、私に説明してくれた女の職員の方が言っていました。何年前のお話なのかは知らないけれども、市長が施設の視察に来られたのだと思うのです。何かの都合で見えいかれたのだと思うのです。そのときに、図書室は、たまたま鍵を掛けて閉じていたらしいのですけれども、やはり図書室は開けなさいということで、こういうふうになっているのだという説明をしてくれたのです。開けるのはいいのですけれども、職員もいないし本も読む所がなくて、果たしてこれが図書室なのだろうか。図書室の一定の役割は果たしているのだろうかと思いました。私が言わなくても、館長はぐさときているかどうか分からないですけれども。

(事務局)

曜日によって閉まっていることがあったのが、昨年度から全開室になったということかと思えます。濁川地区図書室は、以前は月水金の午後だけ開いていたのですけれども、昨年度から開室時間拡大ということで、連絡所が開いている平日の 8 時半から 5 時半まで開いているというふうに変ったのです。

(坂井委員)

市長が開けなさいということをやったと、女の職員の方が言っていましたけれども、それはここだけではないのかもしれないですけども。

(館長)

繰り返しになって恐縮なのですが、全体に予算が減らされている中で、豊栄図書館でも予算が減らされて、本の購入数を減らさざるを得ないところで、地区図書室を新たに図書館にとか、そこで図書館のオンラインにつなぐというのは、流行りの言葉で言えば、持続可能なやり方ではないのではないかと感じております。

(坂井委員)

なくしてしまえばいいと言え、言葉が悪いですけども、松浜か豊栄に来ていただくという方向と、薄々私も感じているのです。地区図書室では、とても勉強とか、そういう体を成していないという感じもします。本を読む座席もないわけですから。

(佐藤委員)

資料0の蔵書利用率というところを、さっきご説明があったのですが、同じ図書室でも利用倍率が高い所もありますよね。どうしてこのように高くなっているのかという分析は、どうなのですか。

(館長)

まず、地区図書室という分類でも、例えば東区プラザというのも地区図書室なのです。東区役所にあります。やはり人口が多く、居住者が多くいて、本をたくさん読む人がいる地域は、結構利用率はいいのだけれども、言い方は悪いですけども、農村地帯はそれほど回転率がよくないというのが現状です。

(佐藤委員)

回転率を見ても、すごく蔵書数が多いけど回転率も高いというところがあるわけですよね。そうすると濁川、南浜というのは2,000冊くらいで、回転率も悪いと。これで見ると、中途半端なのかなという感じはあるわけで。そうなってくると、限られた予算をどこに集中するかということも考えていかないと、多分、あっちもこっちもお金をかけてというのは難しい時代だとは思いますが。例えば私なんか図書館を利用する時に、ネットで予約してみたいな形でやると思うので、今のシステムを使えて、そしてなおかつそこに行けば本を受け取ることが出来るというような、そういうシステム等を作って行くのが一番ではないかなと思います。

(館長)

ありがとうございます。本当におっしゃるとおりなのです。回転率が悪い本を、そのまま



回転率のいい図書館に持って来ると、同じ2,000円の本でも、それだけ年間働くのです。これを金額で試算すると、地区図書室に本を置いて、本が動かないことでものすごい金額の損失が生じているという数字も計算したことがあります。

(伊藤委員)

濁川の住民として、ひと言いいですか。濁川で子育てをして、とても不便でした。社会教育施設もない、児童館、児童センターもない。子育て支援センターができたのも本当に最近なのです。それまで乳幼児の子育てサークルを作って活動してきた経緯もあって、図書館や絵本の大切さというものを痛感しています。地区で、もし図書館が無くなってしまったときに、本当に濁川から何も無くなってしまわないかと。利用率の高い所にあげればいいとなると、あまりにも悲しいというか、公民館事業も全部、濁川公民館から撤退していますし、北地区公民館か豊栄地区公民館に来ないと、家庭教育学級を受けることもできない。出前での講座もなくなっている。週五日制対応事業も、地域の保護者やボランティアが行っているのが現状なのです。

私はたまたま濁川に嫁いで来て、濁川で子育てをするのに、こんなところなのだというのは、すごくショックだったのですけれども、そこからもだんだん衰退していく。坂井さんのおっしゃるとおり、新しいおうちもできていますし、新しい世帯もかなり増えています。農村地帯だけではありません。そういったときにすごく不公平感をかき立てるといいます。公民館の運営審議会にいたときもそうなのですが、南浜、濁川から撤退、引き揚げっていうことをずっと言われていて、そこでも乳幼児や小学生、子育てをしている世代がいるのに、家庭教育学級も引き揚げ、北地区公民館に行かなければだめだと。豊栄地区公民館なんて、15分から20分、車で飛ばして来なくてはいけないといったときに、東区へ行ったほうが早いということで、私は東区で子育てをしてきました。

新崎という地区は、泰平橋を越えると東区があるので、東区、中央区へと足を運ぶことが多かったのです。合併して北区になったときに、北区で子育てできてよかったと思えるように、北区の健康福祉課と子育てしやすい環境を作ることにずっと力を注いできました。しかし、あがくように申し訳ないのですけれども、もう少し濁川や南浜にも住民がいるということを考えていただいて、拡大することはないにしろ、もう少し充実したものにしていくために、坂井さんのおっしゃる話についても、私もいっぱい話はあるのですけれども。児童館、児童センターがない、放課後過ごす場所がないということでは、学校の中のふれあいスクールなどへ、今移行して行っていますよね。

図書館がない、勉強する場がない地区で子育てをしているときに、私はずっと言ってきました。勉強するスペースがほしい、図書館を夏休みだけでも長く開けてほしいと。ずっと言っ

て来ても却下されてきたのです。学校にも言いました。夏休みだけでも図書館を開けてほしい、勉強する場を作ってほしいってずっと言ってきたけど、何も改善はしてもらえなかったの  
で、地域にある施設を利用するとなったら学校しかないのかなと思います。公民館や地区事務  
所があっても、あそこは本当に建物だけで、最悪、地区図書室がなくなったとしたら、学  
校の図書館を少し開放するべきかと思っています。うちの子なども、豊栄に来て勉強する  
場所がないので、ほんぼーとに行っています。あの辺の地区の子どもたちは、豊栄に来るよ  
り、新潟市に行ったほうが早い。電車も、豊栄に来て新潟に行っても同じくらいであれば、  
新潟市、東区、中央区に行ってしまうというのが現状かなと思います。

(坂井委員)

資格試験の勉強をするのに、定期券を買って松浜からほんぼーとまで通った子どもさんが  
います。もうすぐ試験だと言っていましたけれども。おっしゃるように、施設があればそれ  
はそれでいいのだと思います。これは本当に難しいですね。

(館長)

図書館を超えたお話にもなるかと思います。図書館としては、与えられた地区図書室と。

(本間委員)

学校などいろいろものに携わってきたので、そういう意味で今話を聞きながら考えると、  
私もときどき行くのですが、例えば木崎のコミュニティセンターには小さな図書室みたいな  
のがあるのです。何も使わないのだけれども、本がいっぱい入っている。私は実はあの辺り  
では木崎街道と呼ぶ、新発田街道のことを調べた本を自費出版したときに持って行ったので  
す。そしたら、こんなことをやってくれたのか、いい本だねと言って収めてくれたのです。  
掲示板などもあって、今のことを含めながら少し思ったのですが、いずれにしても現状とし  
ては大変厳しいことはよく分かります。人がだんだん減ってきて、利用数が減ってきてとい  
う、それは現状だと思います。

もう一つは、別の側面から言えば、担当者を決めるというのが大変なのはよく分かるのだ  
けれども、例えば小さな図書コーナーを面倒見る人とか、南浜だとか濁川のほうも担当をし  
て、何とかしようという、担当者が何かのアイデアを出そうと思っているところでは、何  
とかいきますよね。それはそれぞれ配置する人数が決まっているので、そこになかなか担  
当者を置けないとなると、ますますそこは使えなくなってしまうという部分があるので、現状  
としてよく分かるのだけれども、もう一度、そこをどういうふうに変えたらいいのかとい  
うことを、少しずつでも考えていかないと、難しい問題だけでそのまま流れてしまうと思  
うのです。

木崎の小さな図書コーナーがあって、ここはまだやっているんだみたいな部分があったの

です。掲示板があったので、私の本は、街道を歩き交う人々という本だったので、街道図の図を掲示板に貼るとか、掲示板にそういう本を紹介するコーナーみたいなものを作って、地域の人が来たときに見れるみたいなことがあったりするといいな。そういった小さな工夫というのはできるのだと思うのです。担当者を置いたり、小さな工夫をしていくという努力をもう一回考えてみるということも大事なのではないかと思ひます。今、お話しした子どもたちの勉強コーナーみたいなのをするということも一つの手でしょうし。知恵を少しずつ出し合っていない限りは、現状の中で、急に利用人数が増えるわけではないし、少子化の時代の中で減るのは確かなのです。減ることだけを考えないで、少しでもそれを活用できる要素というのはないのかということ、大変難しいけれども考えていかなければいけないのではないかと思ひます。

(会 長)

その地域の、濁川小学校の校長先生。小学校の方たちの、地区の図書室の利用状況とかは把握してらっしゃいますか。

(菊地委員)

来てまだ3か月なのですけれども、子どもたちの口から濁川地区図書室って聞いたことがなかった。学校図書館はよく利用してくれているのですけれども、地区の子どもたちが利用しているとか、今、ここで初めて聞いたところす。前任のところ、全く逆で、児童館もありいろんな施設が整っていて、例えば小さい図書室も、公民館長がとても意欲的に皆さんに働きかけて、冊数を増やすように働きかけていらっしゃるところでした。そこにいらっしゃる方が、その図書館をどうしたいと思ひているかの願いをきっちり聞いていかないと、ここだけで勝手に無くす方向とか持続する方向とか、決められないのではないかと感じたので、もう少し地域の方のお話を、私も聞いてみたいと思ひました。

(会 長)

今、地区図書室の話になってしまっているわけすけれども、地区図書室というのは、根本的に考え直して、その地区にある小学校と合併するとか、そんなことは無理なのではないか。

(館 長)

今、小中学校の学校図書館が非常に充実してしまひて、濁川でいえば、濁川小学校と濁川中学校があるのですけれども、片や濁川連絡所の地区図書室は2,000冊ちょっとすので、子どもさんは全然、地区図書室には魅力は感じませんで、学校のほうに興味を持って、そこで充足してしまひます。学校開放して、地区図書室を閉鎖して学校の図書館を利用するというのは、非常にいい考えで、学校図書館の開放というのもよく話に出るのですけれども、やはり

セキュリティの問題があります。私どもも学校を訪問したら、必ず玄関でインターホンを押して、施錠を解錠していただいて入ります。それを頻繁に地域の人に利用していただける形に出来るかどうか。利用していただければ非常にいいと思います。中学校の図書館は、本当に、私みたいな程度だとちょうどいい。読みやすくて、分野も広く、0 類から各類揃っていますので非常にいい状況です。利用できたらいいなと思いますけれども、やはりセキュリティリスクの問題があります。

(会 長)

そうですね、現代の世相が、図書館とかいろんな地域の方たちの交流の場を狭くしているような気がしますね。

私は読み聞かせで、三ツ森児童館に行っているのですけれども、そこは隣に老人たちが集まる施設があるのです。その方たちと年に何回か交流をしています。子どもたちが、三ツ森児童館にある本をおばあちゃんたちに読んであげたりとか、私らも呼ばれて、「年寄りも子どもも聞けるような本の読み聞かせをお願いします」とか言われたりするのです。そういった世代を超えた交流というか、この図書館を建てる時も地域の交流の場としての位置づけというのがあったと思うのです。この図書館に限らず、地区図書室でも、地域の世代を超えた交流の場所としての位置づけです。子どもたちに勉強の場を与えるというのは、私はちょっとどうかと思うのですけれども、そうではなく、地域にある場所だからこそ、地域の人たちがだれでも集まって、みんなで子育てをしていくみたいな図書室になれば、地区図書室もすごく繁栄していくのではないかと思います。

私は行ったことがないから、こんなことを言っただけは悪いのですけれども、地区図書室の状況は本だけ置いて、本当に近くしか行けない人たちだけが行くみたいな、先ほどのお話を聞いていると、読む場所もないようなお話しでしたので、それは交流の場とはなり得ないのではないかと思います。経費は当初かかるかもしれませんが、形を変えていくことはできないものかと考えます。

(館 長)

お話しのとおり、地区図書室は、20 畳もない狭い部屋で、閲覧席は 1 席か 2 席はありますけれども、地区図書室で地域の交流とか、地区図書室で地域の子どもさんたちが勉強するとかという発想は、非常に難しいと思います。交流は、別にきちんと大講堂みたいなのがありまして、そこで子育ての講習会とか出来ますので、地区図書室でそういうのは、なかなか困難かなと思います。

(会 長)

交流の場に地区図書室を移しちゃう的な、そういう発想もあるのではないかと私は思うの

です。

(館長)

本を全部撤去して、その場所を交流の場ということでしょうか。

(佐藤委員)

図書館の話から少し外れるかもしれないのだけれども、私がびっくりしたのは、私はずっと生まれも育ちも新潟市だから、新潟市の尺度でもものを見ているのですが、旧豊栄市、早通ではコミュニティがすごくしっかりしていて、それこそ近くに児童センターがあり、早通の地区図書室は廃止になったけれども、きちんと図書コーナーがあって、そのところにはコミュニティの人がいて、管理はそこでやっていて、そこに来れば、人は当然集うわけですよ。子どもも集えるしお年寄りも来れる。そういう場があれば、多分利用の仕方たくさんあると思うのだけれども、本だけ置いてあっても、多分そこには人は集わない。そういう意味で、根本的にどういうスタイルにしていくのかというのは、新潟市スタイルと豊栄市スタイルがあったと思うのだけれども、当然、一長一短、それぞれあるとは思いますが、どのような形にするかというのは、その住民の方々の思いというものがあると思うので、この場だけでどうするかというのはなかなか難しいと思うし、当然稼働率が悪ければどうしましょうかという話が出てくるものだから、トータルで考えていかないと、図書館だけの問題ではないのではないかと非常に強く感じます。

(伊藤委員)

豊栄市と旧北地区が合併したときに、豊栄市のコミュニティセンター、早通、岡方、木崎、長浦は、コミュニティセンターと公民館が一緒だったわけです。今はそこから公民館機能を外されたということで、コミュニティセンターは広いスペースがあります。でも、南浜と濁川に関しては、連絡所と、公民館の貸館しかないところに図書室があるので、ロビーなんてもちろんありませんし、あそこで勉強するとしたらトイレの前に机を置くとか。なぜか廊下にベビーベッドが置かれてしまったのです。ベビーベッドの脇にソファがあるだけで、机なんか置くスペースもないし、それは地区の人の思い、私たちなんか思いはいっぱい馳せていても、可能にならずにきた。1階にまちづくりセンターができて、そこを勉強のスペースにしたらいいのではないかといたら、それは違うと言われてしまいますし。学校の先生方にお聞きしたいのが、夏休みの図書館を開放するということは、夏休み、春休み、冬休み、長期休みの学校図書館を開放するということはできないものなのではないでしょうか。私は、コーディネーター時代に、中学を開けてもらったのです。夏休み、涼しいところで勉強するコミュニティオアシスが濁川にはないのでお願いしたのだけれども、それは司書が長期休み中は勤務していないのでできないのです、だれが責任取るのですか、セキュリティはどうする

のですかという話になってしまって、土曜日だけ寺子屋みたいなものをコーディネーターが張り付けてやったことあったのですけれども、そういうことはできないのですか。

(佐藤委員)

うちはやっていましたよ。実際に開いてやりましたが、多分地域の方でも、お孫さんと一緒にというおばあちゃんが来られたくらいでした。ただ、どうしてもセキュリティの問題はありますので、誰でも彼でも入って来れるというのは、逆に怖い部分がありますので。

(金桶委員)

葛塚小学校でも、図書館は地域に開放されています。ただ、私がコーディネーターとして思うことは、使ってほしいということです。知っている人は、開放日に来るという人があって、私もコーディネーター通信に、地域に開放されていますと一言載せて、夏休みは学校図書館へ行こうと案内しているのですが、まだまだ知らない人が多いなど。セキュリティの部分はちょっと置いておいて、来てほしいと思っています。実際開放されている学校もあります。

(佐藤委員)

よく知っている方は、中学校でも小学生のお孫さんと一緒に来られる方がいたりとかしています。

(伊藤委員)

葛塚中学校、葛塚小学校では、図書館はどこにあるのですか。

(金桶委員)

葛塚小学校は、学校の2階です。

(伊藤委員)

濁川中学校は1階が調理室で、パートナーシップ事業を始めたときは、料理はいいのです。1階なので、地域の人たちにばんばん入って来てもらえる。外玄関もあつたりして。2階だとやっぱり入れたがらないです。もし可能であれば、本当は水原中学校みたいに、学校が公共図書館を抱える、そういった複合施設になっていくと一番素晴らしいかなと思います、可能になったらいいかなと思います。

(会 長)

そうやって地区図書室が活発になっていくにも何するにも、やっぱり本が、本を手取る人をもっと増やしていかなければいけないなと思います。私、最初のお話で、7万8,000人いる北区の中で、1万3,000人しか登録してないというのがすごくびっくりしたのです。15パーセントと言っていましたね。そのうちの11パーセントが市外の方とおっしゃっていましたよね。ということは、北区、新潟市っていうか、その中で登録している人って、本当

にわずかなのだなと思います。私は 30 パーセントくらいはいつていると思っていたのです。すごく衝撃を受けたのですけれども、本に親しむというか、そういうところの底辺を広げるというところとちょっと語弊があるかもしれないのですけれども、とにかく図書館というのは敷居が高いつている方が大勢いるのです。自分たちの周りは同じようなことをやっている人と友達になっていますので、本に思いが深い方とかが多いので、自分たちの周りを見ると、そういう方は全くいないのですけれども、そのまた外側を見ると、例えば、私は自動車会社に勤めているのですけれども、そこに来るお客さんというのは、本当に田舎のおじいちゃん、おばあちゃんとか、そういう方が多いのですが、図書館なんて 1 回も行ったことがないという方が本当に多いのです。すごくびっくりするのです。しかし、それが現実なのだと思いません。

まず、私たちが根本的に考えていかなければいけないのは、本に親しむことができる人を増やしていく。それには、先ほど、図書館内の施設見学を各小学校で何校かやったといっていましたけれども、松浜のほうは、保育園が 1 校やったということでしたが。

(事務局)

保育園 1 園と、昨年度は中学校の施設見学も実施しました。

(会長)

本に親しむのは、やはり幼児期だと思うのです。幼児のころから図書館というものを認識して、図書館に行けば、こんな楽しい本がいっぱいあるということに気づかせるようなことをどんどんやっていって、図書館人口を、ぜひ増やしてもらいたいと感じました。

(金桶委員)

今の図書館人口ということで、学校図書館と豊栄図書館とボランティアの関係、ボランティアの取組を話させてほしいのですけれども、読み聞かせが小学校でもありまして、地域の方がボランティアに来るのですが、ボランティアみんなが思っていることは、「図書館に足を運んでね」ということで、その意識を持って読み聞かせに出ています。必ず最後に、「今日読んだ本は学校図書館にありますよ」、もしくは「豊栄図書館にありますよ」ということを、必ずインフォメーションしてきます。そうすると子どもたちは、学校図書館にすぐ走って行って、あまり普段人気のない本なのだけれども、ボランティアが紹介した本を手にとって借りて行くと、司書の先生が話してらっしゃいました。

こういった取組をボランティアはやっていますので、あまり人気のない本、手に取らないような昔話などの本をこのごろ借りて行くのですと司書の先生が話していらしかったので、これはボランティアの取組みだなと思っています。もちろん「豊栄図書館で借りて来た本です」と必ず言っています。

子どもたち、夏休みの自由研究をしたりする子もいるので、夏休み前に、ぜひそこら辺もインフォメーションしたいと思っています。そこら辺の手助けをして、サポートをしてくださるとありがたいと。子どもたちが来たときに、話せるような感じになっていたらいいかなと思っています。

おはなしのじかんとか、わくわく体験夏まつりの取組みなど、たくさんやったださっていてありがたいと思っています。そこに参加するボランティアの人数とか、参加者、聞きに来る子どもたちも、多少の変動はありますが、急激な変動はなく、毎年定着をしているのではないかと思っていました。これからもこういった行事をよろしくお願ひしたいと思います。特に読み聞かせ講座を毎年、ぜひ続けていっていただきたいと思っています。

(伊藤委員)

それに関連して、先ほど会長が乳幼児期のはたらきかけが重要だとおっしゃったのですが、母親や父親への仕掛けというか、家庭教育の場面で、親子で読み聞かせをするという機会を増やしてほしいなと思っています。その辺への関係で、ゆりかご学級への出前はあるようなのですが、幼児期家庭教育学級などへも講師派遣をしていただきたいと思います。

北地区公民館開催ののちびっこキッズフェスティバルにずっとかかわってきたのですが、去年は、図書館が入ってくれてよかったと思っています。

さわやか市政トーク宅配便などは、どんどん活用して、乳幼児期の働きかけができるようにアピールしていくといいのかなと思ったりしています。

(会 長)

ありがとうございました。

時間を過ぎてしまって、早くもまとめることの下手さ加減が露呈してしまって申し訳ありません。

(坂井委員)

ちょっといいですか。早口で言います。

松浜図書館で、『日本類語大辞典』、『漢字語源辞典』とか、『国語大辞典』などの辞典が五つあります。なぜこれを言うかといいますと、例えば『日本類語大辞典』というのは、明治 42 年 7 月 10 日に初版が発刊されているのです。現実にあるのだけれども、とても使えない。漢字は旧字になっているし、明治 42 年という 100 年以上前の辞書であるということ。『漢字語源辞典』は寄附されたものなのでしょうけれども、昭和 40 年に発刊されている。奥付、みんな見ると分かるのですが、『大漢和辞典』は昭和 30 年。ともかく、今の時代にはおよそ使えない辞書が並んでいるので、これを取り替えていただきたい。取り替えたほうがいだろうと。ここの豊栄図書館なんか見ると、本当に素晴らしい。辞書ですから、



10年経ったから使えないものではないのです。辞書というのは30年、40年大丈夫だと思うのですが、特に明治42年のこれなどはどうやっても読めない。みんな旧字というか、漢字自体がですね、本字になっています。ぜひ、取り替えて、今の世に合わせていただければ一番ありがたいと感じております。

(会 長)

話の腰を折って申し訳ありません。1冊1冊の選書のごことは、個別に図書館のほうに話を伝えることにしませんか。

だいぶ時間が過ぎてしまったのですけれども、本当に、活発ないろいろな意見が出て、本当にいいお話し合いができたと思います。

図書館のほうからは、ほかに何かありますでしょうか。

(事務局)

事務連絡なのですけれども、本日、初めてご出席いただいている学校の校長先生以外の委員の方、本日ですと副会長の本間さんのところに、マイナンバー等の、謝礼のお支払いに係る書類を置かせていただいていますので、会議終了後にご説明させていただきます。

また、会議終了後に、希望者による豊栄図書館の裏側探索ということで、バックヤードツアーを、木村館長がご案内いたしますので、希望される方は終了後、そのまま会場にお残りください。

(会 長)

今日は活発なご意見、ありがとうございました。